

<全体分析>

試験時間 75 分

解答形式

記述・論述・描図・選択・マーク

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

設問数・計算量ともに大きく増加した。また、全ての大問が難しく、手を出せない問題が多かったであろう。時間内に全ての設問を解答することは不可能と言ってよい。

出題の特徴や昨年との変更点

例年と同様に〔3〕では独立した内容の問題A・Bが出題された。

その他トピックス

特になし

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
〔1〕	問形式・ 空所補充 (記述)	力学 (斜方投射・ 2物体の衝突)	物理	放物運動と2次元での2物体の衝突を扱った問題である。I.は頻出問題であるので得点したい。II.は煩雑な計算をこなすことが難しい。III.は重心から見た運動の扱いに習熟していなければ解くことができない。	難
〔2〕	問形式・ 空所補充 (記述・選択)	電磁気 (コンデンサー・ 電磁誘導)	物理	特殊な形状のコンデンサーの電気容量を求めさせ、そのコンデンサーに流れ込む電流による電磁誘導を考えさせる問題であった。I.は問1は確実に解答し、問2からは、コンデンサーに蓄えられる電気量の変化と電流の関係をはじめ、さまざまな物理量の間になり立つ関係を正しくとらえ解答する必要がある。II.はI.と同じ手順をたどればよいのだが、コンデンサーの形状が見慣れない上に計算も複雑となるため、解答することは難しい。	難
〔3〕	問形式・ 空所補充 (記述)	A.熱 (気球) B.波動 (斜め方向の ドップラー効果)	物理	A:密閉された気球についての問題であった。気体A,気体Bのそれぞれの体積を確実にとらえ、計算を進めなければならない。 B:等速円運動をする観測者が観測する音のドップラー効果を扱った問題である。問7はヒントを与えられているが解答することは難しい。	A:難 B:やや難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

教科書で扱われている基本事項を確実に理解し、物理的な内容を正確に理解した上で、発展的な問題演習に取り組む必要がある。

題意のとらえにくい設問では、問題文の流れを注意深く追っていくことが要求されるので、読解力を養う練習も欠かせない。